

|        |  |      |       |
|--------|--|------|-------|
| 学校名    | 長野市立信州新町中学校                                  | 執筆者名 | 阿部 裕一 |
| 研究タイトル | 宿泊学習のプランニングを主軸とした、「社会人基礎力」を育むためのカリキュラムマネジメント |      |       |

① **育てるべき資質や能力**・・・自分で設定した未来を担う子どもたちを育てるべき資質や能力について、その必要性を踏まえて記述する。

主に育成すべき資質/能力のキーワード 「社会人基礎力」(目標達成に向け前向きに挑戦し続ける力)

情報化・グローバル化が進み、めまぐるしく変化していく中、我々教師に求められているのは究極「社会に出て一人前に働ける力をもった子どもを育てること」だと捉えている。

しかしながら、ここ10年を振り返ってみると、学習指導要領などが掲げている目標とは裏腹に、公立中学校では生徒の「考える力」「課題解決能力」「行動力」は、みるみる衰えていると感じる。少し難しい問題や課題を前にすると、考えるよりも早く「わからない」「できない」「無理」と口にする。配布されているタブレットで調べればすぐわかることなのに、なぜ自分で考えなければならないのか。無駄ではないかと思っている生徒も少なくない。情報があふれ、機械化・効率化が進み、なんでもすぐ調べられる時代だからこそ、その情報を精査・活用し、新たな価値を見出したり、創り出したりできる、クリエイター足りうる人材が求められている。そんな中、このままだと身近な生徒たちは、消費者はおろかいいように搾取されるだけの浪費者になってしまいそうだ。こうした生徒たちが将来社会に出て働く姿を想像すると、不安しか感じない。

そんな中、職場体験学習の一環として知ったのが、経済産業省が策定した「社会人基礎力」だ。

【経済産業省が策定した社会人に必要とされる「社会人基礎力」】

『前に踏み出す力 (Action)』～一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力～

**主体性** … 物事に進んで取り組む力

**働きかけ力** … 他人に働きかけ巻き込む力

**実行力** … 目的を設定し確実に行動する力

指示待ちにならず、一人称で物事を捉え、自ら行動できる。

『考え抜く力 (Thinking)』～疑問をもち、考え抜く力～

**課題発見力** … 現状を分析し、目的や課題を明らかにする力

**計画力** … 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備する力

**想像力** … 新しい価値を生み出す力

論理的に答えを出すこと以上に、自ら課題提起し、解決のためのシナリオを描く、自律的な思考力。

『チームで働く力 (Teamwork)』～多様な人々とともに、目標に向けて努力する力～

**発信力** … 自分の意見をわかりやすく伝える力

**傾聴力** … 相手の意見を丁寧に聴く力

**柔軟性** … 意見の違いや相手の立場を理解する力

**状況把握力** … 自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力

**規律性** … 社会のルールや人との約束を守る力

**ストレスコントロール力** … ストレスの発生源に対応する力

グループ内の協調性だけに留まらず、多様な人々とのつながりや協働を生み出す力。

現行の学習指導要領の目標であるところの「学び続ける力の育成」「主体的・対話的な深い学び」「協働する力」と照らし合わせると、根本的な部分で共通点が多いことに気づく。つまり、中学校で育てるべき力は、「個々の生徒が社会に出て活躍できるための力」でもあると考える。

前述した不安を払拭し、教師としての責務を果たすためには、中学生の段階から社会に出て役立つ力、生きて働く力を育てなければならないと思い、ここ数年は教務主任として「キャリア教育」「総合的な学習」「学校行事（宿泊学習）」を連携させたカリキュラムマネジメントに取り組んできた。本校で目指す生徒の姿である「気づき・考え・行動する生徒」の実現を目指し、教科の学習で得た知識や技能を活用し、主体的・対話的に課題解決に取り組み、自らの意見を効果的に発信できる学習活動を計画し、実行してきた。この学習活動を通して、難題や失敗にくじけず、「目標達成に向けて前向きに挑戦し続ける力」の育成に挑戦してきた。

② **子どもたちの現状**・・・子どもたちの置かれている環境や状況、学習レベルなどを客観的に把握することによって収集した情報に基づき、子どもたちの現状について記述する。

### 1. 困難や苦しいことを避ける生徒の増加

企業の採用時に運動部経験者が優遇されるというのはよく聞く話である。その理由の一つとして、「自己の成長や目標達成に向けて粘り強く努力し続けることができる人物」と見なせるからだという。

しかしながら、近年では全国的に運動部の加入率が下がっており、NHKの調査によると今年度は59.6%と、初めて60%を割り込んだことが判明。正確な記録が残る2006年度以降で見ると過去最低。さらに都道府県別で見ると、8割近くにあたる37の道県で今年度が過去最低という結果になった。長野県は51%で全国ワースト2位。本校の加入率は65%だが、引退した3年生を除くと50%まで下がる。入部しない生徒に理由を聞くと、「競い合うことが性に合わない」「時間の制約が大きい」「苦しい思いをしたくない」といった声が多い。

こうした実態から、困難や苦しいことを避け、そもそも立ち向かおうとしない生徒が増加してきていることがうかがわれる。「目標達成に向けて前向きに挑戦し続ける力」の育成を目指す身としては、厳しい現実である。

### 都道府県ごとの入部率(今年度)

| 順位 | 都道府県 | 入部率   |
|----|------|-------|
| 1  | 福島県  | 75.6% |
| 2  | 鳥取県  | 74.7% |
| 3  | 岩手県  | 72.8% |
| 4  | 宮城県  | 70.1% |
| 5  | 山形県  | 69.6% |
| 44 | 北海道  | 52.2% |
| 45 | 東京都  | 51.1% |
| 46 | 長野県  | 51%   |
| 47 | 奈良県  | 50.7% |

赤字=過去最低

### 2. カリキュラムマネジメントの成果

令和4年度に前述の「キャリア教育」「総合的な学習」「学校行事（宿泊学習）」を連携させた宿泊学習のプランニング活動に取り組んできた令和5年度の3年生と、経験していない前年度の3年生を全国学力学習状況調査の結果で比較してみると、教科の得点では顕著な差は見られなかったが、自分が学習してきたことに対する実感には大きな差があることがわかった。「生徒質問紙」の項目から、特に関係する質問の中でも、令和5年度に数値が大きく改善された2つを紹介する。

## 全国学力・学習状況調査「生徒質問紙」回答結果（公立中学校）

|  | 令和4年度  |      |      |      |     | 令和5年度 |      |      |      |     |
|--|--|------|------|------|-----|-------|------|------|------|-----|
| 質問事項   | 1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか                            |      |      |      |     |       |      |      |      |     |
| 選択肢  | 1  | 2    | 3    | 4    |     | 1     | 2    | 3    | 4    |     |
| 本校   | 46.2   | 23.1 | 23.1 | 7.7  |     | 31.3  | 68.8 | 0.0  | 0.0  |     |
| 長野県  | 32.1   | 50.6 | 14.8 | 2.5  |     | 31.6  | 50.6 | 14.9 | 2.6  |     |
| 全国   | 31.2   | 48.0 | 17.2 | 3.5  |     | 30.4  | 48.8 | 17.0 | 3.6  |     |
| 1. 当てはまる 2. どちらかといえば当てはまる 3. どちらかといえば当てはまらない 4. 当てはまらない                            |  |      |      |      |     |       |      |      |      |     |
| 質問事項   | 1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか |      |      |      |     |       |      |      |      |     |
| 選択肢  | 1  | 2    | 3    | 4    | 5   | 1     | 2    | 3    | 4    | 5   |
| 本校   | 30.8   | 38.5 | 15.4 | 15.4 | 0.0 | 25.0  | 75.0 | 0.0  | 0.0  | 0.0 |
| 長野県  | 20.1   | 43.4 | 24.6 | 8.4  | 3.4 | 21.0  | 44.1 | 23.1 | 8.3  | 3.4 |
| 全国   | 22.5   | 40.8 | 23.8 | 10.4 | 2.4 | 21.9  | 40.2 | 23.6 | 11.2 | 2.8 |
| 1. 発表していた 2. どちらかといえば発表していた 3. どちらかといえば発表していなかった 4. 発表していなかった<br>5. 考えを発表する機会はなかった |  |      |      |      |     |       |      |      |      |     |

令和4年度と令和5年度では、教科担任は替わっていないため、教科の授業内容が劇的に変わったとは考えにくい。やはり要因として考えられるのは宿泊学習のプランニング活動が大きいと思われる。

活動の有効性は確かめられたが、課題としては学力の向上にまで寄与していない点が上げられる。プランニング活動自体には意欲的・主体的に取り組んだ生徒だったが、教科の学習内容との関連付けが薄かった。次のステップとして、教科の学習内容と結びつけるマネジメントを行っていきたい。

### ③ 教育支援の方針・・・収集した現在の情報に加え、過去の実践経験や知見（失敗）なども踏まえ、教育支援の方針を記述する

#### 1 これまでの実践とそこから得られる知見

「社会人基礎力」を育むために、令和4年度より生徒が取材し、企画を考え提案し、実際にその行程で宿泊学習を行う1・2学年共習・2年スパンで行う「宿泊学習のプランニング活動」を計画・実施した。企画年度である令和4年度の活動概要は以下の通りである。

|                 |  |
|-----------------|--|
| ①ガイダンス<br>(2時間) | <ul style="list-style-type: none"> <li>1・2年生に令和5年度の合同宿泊学習のプラン作成を依頼。<br/>※方面は「長野県東信地方」に限定。予算と期日は共通で設定。</li> <li>前年度の宿泊学習を担当した職員から、どのような意図で見学地や学習活動を設定したか説明し、作成する宿泊学習のイメージを示す。</li> <li>旅行業者担当者から、教育旅行の企画を作成する手順や、配慮すべき点などについて説明を受ける。また、旅行先の東信地方にある主な見学地を紹介してもらう。</li> </ul> |
| ②旅行会社設立 (1時間)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>1・2年生37名を、縦割りで9人～10人の4グループに編成し、仮想旅行会社を設立する。※1・2年の職員4名を各グループに担当職員として配置</li> <li>情報収集と取材先の選定開始。</li> <li>会社ごとにMicrosoftのTeamsで情報のやり取りや共同編集を活用して進める。</li> </ul>  |
| ③取材旅行の          | <ul style="list-style-type: none"> <li>7月の取材旅行で訪れる取材先を決め、所要時間・費用などを調べ行程表を作成する。</li> </ul>  |

|   |   |
|---|---|
| 計画作成<br>(5時間)                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>※作成した行程は旅行業者に送り、不備がないかチェックしてもらう。</li> <li>・業者からの指摘を基に、取材旅行の行程や取材先について見直し、確定させる。</li> <li>・当日の取材計画を作成し、作業分担を決める。</li> </ul>   |
| ④日帰り取材<br>旅行 (1日)                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとにマイクロバスを使用して、旅行先の取材に出かける。</li> <li>・実際に現地でインタビューしたり、企画が実施可能か検討したり、プレゼン用の写真を撮ったりする。※担当職員がバスに同乗して引率</li> </ul>  |
| ⑤次年度宿泊<br>学習のプラ<br>ン・見積書<br>・プレゼン<br>資料の作成<br>(8時間) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・下見で集めた情報を基に、移動時間や見学時間を決めだし、行程表を作成する。</li> <li>・拝観料や食事代など、必要な金額を洗い出し、見積書を作成する。</li> <li>・旅行プランのプレゼンテーション資料もパワーポイントで作成する。</li> <li>※行程表・見積書は旅行業者からテンプレートをもらい使用<br/>プレゼンテーションには行程と見積もりを必ず入れるよう指示<br/>限られた時間内に作業を完遂するため、グループ内で分業するよう促す</li> </ul> |
| ⑥プレゼン準<br>備 (3時間)                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼン資料の確認・修正。発表原稿の作成と分担決め。</li> <li>・グループごとにプレゼンのリハーサルを行う。</li> </ul>   |
| ⑦プレゼン発<br>表・投票<br>(各1時間)                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・参観授業で各社作成したプランを保護者にプレゼンする。※持ち時間は1社10分</li> <li>・保護者にはアンケートで、採用したいプランと各社の提案に対する意見をもらう。</li> <li>・体験入学時に各社作成したプランを6年生にプレゼンする。※持ち時間は1社10分</li> <li>・6年生にはアンケートで、採用したいプランと各社の提案に対する意見をもらう。</li> </ul>   |
| ⑧まとめの会<br>(2時間)                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>※投票結果と各社の行程表・見積書・プレゼン資料を旅行業者に送り講評を依頼しておく。</li> <li>・採用結果通知を封書で各グループに配布する。</li> <li>・旅行業者担当者から、各社のプランに対する講評と、結果の受け止め方についてお話しいただく。</li> <li>・各グループごとに、学習の振り返りを行う。</li> <li>※保護者・6年生の意見はタブレットで全員が確認できるようにしておく</li> </ul>                          |

実際の生徒の様子から示唆された成果 i ~ vii を紹介する。

### 【主体的な学習への動機付け】

- ・依頼を受けたガイダンスの段階で、2年生のM生が旅行業者の方に質問する姿が見られた。

|      |   |
|------|---|
| M生   | 宿泊先を選ぶときに、何か注意すべき点とかありますか？                    |
| 旅行業者 | 予算や立地もそうですが、食事も大切で、特にアレルギー対応をしてもらえるかは重要です。    |
| M生   | アレルギー対応は宿だけでなく、昼食会場でも気をつけた方がいいですね。他にも何かありますか？ |
| 吉澤さん | あとは宿のキャパが学校の参加者数と合っているかとか・・・。                 |

M生はこの後、グループ(仮想旅行会社)のリーダーにも立候補する積極的な姿を見せた。教科の授業では、このように主体的に学習に取り組むM生の姿はなかなか見られないので、この学習にいかに関心をもっていただかがわかる。他の生徒も同様に高い関心を示していた。

○生徒の関心をひいた要因としては次の3点が考えられる。



- i 与えられるのではなく、自分たちが決められるという自由度とやりがい。
- ii 正式な書式の文書による依頼が、旅行業者の仮想体験にリアリティをもたせた。
- iii プロ（旅行業者）の方から直接話を聞き、学習の見通しがもてた。

特に学習の見通しをもてたことが、「やってみたい」という意欲に結びついたと考える。

### 【ICTを活用した協働と合意形成】

- ・授業時間として取材旅行の準備にとれたわずか5時間で、生徒は東信地方(旅行先)の魅力的な見学地や実施可能な学習活動を調べ、取材先を選定し、所要時間を調べて日帰り取材旅行の行程を作成しなければならなかった。かなり無理がある計画だったが、生徒はタブレットの Teams を活用して授業時間外でもチャットで連絡を取り合ったり、分担して情報を収集したり、共同編集で行程表を作成したりして、期限内に4グループとも旅行計画を立てることができた。

また、見学地やそこで行う学習活動のアイデアについては、宿泊学習の「目的」を踏まえた理由も主張しながら、それぞれ自分の意見を伝え合う姿も見られた。中には修正を繰り返し5案目ようやく行程が決まったグループもあった。その妥協せずに粘り強く合意形成しながらより良いプランを模索する様子からも、この学習に打ち込む生徒の熱意を感じられた。

- ・取材旅行後に行った宿泊学習2日間の行程・見積もり・プレゼン資料を作成する活動でも、ICTを活用して協働する姿が見られた。8時間という限られた時間内で終わるにはかなり厳しい内容だが、実際に社会に出て勤めれば、こうした状況には遭遇する。教科の学習だったらやる前から諦めそうな課題だが、生徒は全員が前向きに挑み、自らができることを率先して担当し、完成目指してひたむきに取り組んだのだ。中には時間が足りないからと、タブレットを持ち帰って作業を進めた生徒も少なくなかった。目標達成に向けて、見通しをもって今必要なこと、自分にできることを考え、主体的に取り組む姿がそこにあった。最終的に4社とも期限内にすべて完成させ、提出することができた。仕上がりに粗さはあったものの、期限までに形にして提出できたことを、まず評価したい。

○生徒が意欲的・主体的に学習に取り組んでいたことは、プラン作成後にとった振り返りのアンケートにも表れている。※回答数33人/37人

|                      |                       |
|----------------------|-----------------------|
| 1. 興味をもって主体的に取り組めたか？ | 2. また同じような学習をやってみたいか？ |
| はい 33人      いいえ 0人   | はい 33人      いいえ 0人    |

来年の一、二年生のために今の僕達がどいうテーマで何を取り入れるか、何を学べるのかということを考えてみんな自由に場所を見つけようと頑張れたことがとても楽しかった。

あまり先生が進めずみんな考えられた点  
せんはいと、いっしょにできる点かかった。  
それに実際に行ってみてよかった所悪かった所など、自分の意見を、  
気にならずに言えた。

こうした生徒の姿は、我々にとって教科の授業改善にも大きな示唆を与えているように感じる。主なものとしては次の2点が挙げられる。

- iv 教師主導ではなく、生徒に委ねる学習活動が主体的な学びを生み出す。
- v すぐに支援せずに、生徒を信じて任せれば、協働の学びの中で課題を解決していく。

#### 【学びを深めるゴールの設定】

- ・プレゼン発表に向けての練習を行う中で、休み時間などを使って直前までパワーポイントのデータを修正する姿や、より関心をひけるよう演出方法を工夫する姿が見られた。自社の企画を採用してもらうため、各グループ笑いをとるような写真を入れたり、CMを模した演出を加えたりして、どのグループも見応えのある発表ができた。こうした粘り強くよりよい表現を追究する姿勢が生まれたのは、教科の学習発表とは違い、外部の人に「採用してもらう」という明確な目的があったからだと思われる。
- ・グループによっては「牛に引かれて善光寺参り」をテーマに行程と活動を提案したり、「東信地方の自然を学び、グループワークで仲間との絆を深める」というコンセプトを打ち出したりもしていた。これらから、生徒は自発的に既存の自然や文化財と学習活動を組み合わせ、新たな価値を生み出していたことがわかる。
- ・保護者と小学生には、どのプランがよかったかだけでなく、各社の提案内容に対する意見や感想も寄せてもらった。こうした採用する側からのフィードバックが、生徒にとって価値ある学びにつながる考えたからである。小学生は、学校側からの提示条件と合っているかや、バスでの移動時間の長さなどまでチェックして選別しており、驚かされた。各社の提案への意見を一部紹介する。

|     |  |
|-----|--|
| 保護者 | プレゼンが楽しかったです。宿泊がキャンプ場とはさすが子どもたちの企画と思いますが、その内容をもう少しアピールして欲しかった。 |
|     | 白樺高原チームビルディング（体験学習）は、とても面白そうなのですが、宿泊費と体験費用を合わせると高いかな…。         |
|     | 計画にストーリーがあって、そのことについて学べる旅行になると思いました。                           |
| 6年生 | 楽しい活動が結構あったけど、移動時間が結構長かったの、そこも考慮した方がよいと思った。                    |
|     | 楽しそうな活動がたくさんあったけど、「ナナーズ」（スーパーマーケット）で買った弁当をバス内で食べるのはコロナが心配だった。  |
|     | 運動が苦手な人のこともしっかり考えて行くところを採用してありよいと思った。                          |

- ・採択結果を伝えるまとめの会には、旅行業者の方にも同席していただいた。はじめからわかっていたことだが、採択されるのは1社のみで、努力したにもかかわらず報われない結果となり、落ち込んだ生徒も多かった。そこにプロの旅行業者の方から、各社のプランについてよかった点や改善点などについて講評してもらったことで、生徒達は採用・不採用に関わらず、達成感や次への課題意識をもつことができた。学習を振り返る場面では、保護者と小学生の意見を食い入るようにチェックし、自分たちのプランの評価されている点と改善点について話し合っている姿が印象的だった。

生徒の感想や振り返りを紹介する。

今日は、キャリア学習のまとめをしました。採用された会社も発表されました。僕たちは、今回採択を見送られてガーンってなりましたが、業者の方の講評を聞いて、もっとこうできたなとかここはよかったなとか、いろいろ見えていなかった視点から考えられて新たな発見をしたり、改善点も見つけたりたくさん学ぶことができました。

プラン作成をしていく中では、どんなプランにしたら本当にみんなが楽しんで学習できるか、プレゼンをどういう風にしたらよさが伝わるか、自分視点じゃなく第三者の視点になって考えてみる力がついたと思うのでよかった。

場所ばかり多く詰めてもたいして効果がないと思った。たくさん場所に行けるのは楽しいけれど、採用されたグループのように、場所と場所の関わりがなくて、同時にたくさんの学習活動があまりできなかったと感じました。でも、計画したバーベキューの活動とかは、仲間との協力の場面が多いので、そこはよい点だったと改めて思いました。

プレゼン発表や振り返りからは、次の2点が示唆された。

vi 目的意識と必要感のあるゴール設定が、生徒の主体的な工夫や粘り強い追究を生む。

vii 外部からの評価を得ることで、取り組みの成果に目を向け、次への課題意識がもてる。

- ・社会に出ればうまくいかないことなど山ほどある。そうしたときに簡単に折れず、次を見据えて立ち上がり、乗り越えていく。そんな力がこの学習で身につけてくれば「社会に必要とされる人材を育てる」真に有意義な学習活動となる。

## 2 育てるべき資質/能力にさらに迫るための課題と支援の方針

### 【学習展開の改善】

振り返りのアンケートの中には「取材は楽しかったけれど、2日間の旅行プランが決まっていない状態で取材してしまったから、いざプランを立てるときに変更しないといけない所がでてきてしまったので、先に決めてから行った方がよかった」といった、改善に向けた要望も生徒から出ていた。職員からも同様の意見があり、やはり先に2日間の行程と活動を計画してから、実際に現地に赴いて取材を行った方が効果も効率も上がると感じた。教科の学習と連動させることで時数を確保していく。

### 【学力向上・教科の学習との連携を図る】

旅行プランを作成するにあたり、訪問先の自然や文化財などについて調べ、その価値や活用方法を考えて結びつけるという姿は見られたが、教科の学習内容や知識を活用して結びつけようとする姿はあまり見られなかった。「教科横断的・発展的な課題解決学習」である総合的な学習としては、教科の学習内容や知識を旅行プラン作成に結びつけ、生徒の学びを深める必要性を感じた。そうすることで、生徒の追究を深めたり、授業に生徒からの「持ち込み」を生み出したりして、結果として学力の向上を図りたい。

- ※「持ち込み」・・・生徒が教科の授業に、自らの疑問や追究したい課題を投げかけたり、関連する資料を自ら見つけ、クラスに紹介したりすること。

例：社会の地理や気候の授業で、訪問先の特産品や気候の特徴について調べたいと申し出る。

### 【支援の方針】

本校の実践を知った他校の教員からは、好評価をいただいた一方、では自校でも取り入れるかとなると、「学年1クラスの小規模校だからできること」「生徒数が多い学校では、10人規模のグループでのプラン作成は指導の手も足りず、発表の時間もとれず、收拾がつかなくなる」といった理由で、ほとんどの教師が難色を示した。筆者自身も異動で大規模校に赴任する可能性があるため、実践の成果 i ~ vii は生かしつつ、以下の手立てを取り入れ、学年複数クラスの規模でも実現可能な実行計画を考える。

**手立て1** 教科の学習と連携させ主体的な追究を誘発し、学習成果を上げる

**手立て2** 目標達成や課題解決にICTを活用する。

※手立て1については、筆者が担当する国語の授業に関して計画する。

**④ 実行計画と準備状況**・・・教育支援の方針をもとに、「自分がいつ、何をどのように行うのか」具体的な実践や行動に落とし込み、来年度以降の実行計画と準備状況を明確に記述する。(3~4ページ程度)

具体的な工夫のキーワード

宿泊学習のプランニングを主軸としたカリキュラムマネジメント

【想定】中学校の所在地は長野県北信地方。1学級30人程度。1学年5クラス。2学年進級時に学級編成替え有り。旅行業者は(株)アルピコ長野トラベルが協力してくれる。

【基本サイクル】

1学年時に自分たちでプランニングした宿泊学習を、2学年で実際に実施する。

1学年 来年度2学年で行う宿泊学習のプランニングを生徒に依頼 → 見学地・学習活動・宿舎・食事などの選定 → 行程と見積もりの作成 → 取材旅行の計画立案 → 取材旅行 → 行程と見積もりの確定 → プレゼン資料の作成 → プレゼン発表・投票 → 採択結果の通知と振り返り

2学年 採択されたプランを基に計画された宿泊学習を実施 → 職場体験学習・進路学習・修学旅行の計画などにつなげていく

【1学年時の学習展開】 ※**手立て1** **手立て2** は前項を準用する

|    |   |
|----|---|
| 5月 | ①ガイダンス（総合2時間）   |
|    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生に来年度の宿泊学習のプラン作成を依頼。<br/>※方面は「長野県中信地方」で上高地は必ず入れる。予算と期日は共通で設定。</li> <li>・学校職員から、学校行事としての宿泊学習が、どのような意図で見学地や学習活動を設定されているか説明し、作成する宿泊学習のイメージを示す。</li> <li>・旅行業者から、教育旅行の企画を作成する手順や、配慮すべき点などについて説明を受ける。また、旅行先の中信地方にある主な見学地を紹介してもらう。</li> </ul> |
|    | ②旅行会社設立（学活1時間）  |
|    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス単位で仮想旅行会社を設立する。社内（クラス内）でさらに10人程度の3グループに分ける。</li> <li>・見学地や食事、宿舎、考えられる学習活動などについての情報収集開始。（個人活動）</li> <li>・会社ごとにMicrosoftのT e a m s で情報のやり取りや共同編集を活用して進める。<b>手立て2</b></li> </ul>  |



|      |  |
|------|--|
|      | <p>③収集した情報の社内共有（国語 4 時間）<b>手立て 1</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語のスピーチの単元「話の構成を工夫しよう」の学習活動として、訪問先の中信地方で見つけたおすすめの情報（見学地や食事、宿舎、学習活動など）を伝えあい、社内で共有する。</li> </ul> <p>第 1 時：スピーチの手順と話し方のポイントの確認</p> <p>第 2 時：スピーチの発表準備 ※聞き手の関心を引くような構成や話し方を工夫する</p> <p>第 3 時：グループ内でのスピーチ発表と、全体に紹介する情報の選別</p> <p>第 4 時：グループごとに発表し、情報を全体で共有する</p> |
| 6 月  | <p>④見学地などの選出（学活 1 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共有した情報を基に、社としてプランに盛り込む見学地や食事、学習活動などを決め出す。</li> </ul>   |
| 7 月  | <p>⑤グループごとに 2 日間の行程を立案（総合 2 時間・学活 2 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・決め出された見学地を回る順序や、各所で行える学習活動などを考え、行程表を作成する。</li> </ul>   |
| 9 月  | <p>⑥社内コンペの準備（国語 6 時間）<b>手立て 1</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語のレポートを書く単元「根拠を示して説明しよう」の学習活動として、グループで考えた行程・見学地での活動内容・選んだ食事などについて、根拠を示しながら説得力のある説明を考え、レポートにまとめる。※根拠となる資料は I C T で収集<b>手立て 2</b></li> </ul>  |
| 11 月 | <p>⑦社内コンペ（国語 5 時間）<b>手立て 1</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語のディスカッションの単元「話題や展開をとらえて話し合おう」の学習活動として、レポートを基に各グループの考えた行程や食事、学習活動について比較検討し、社として提案するプランを話し合って決め出す。</li> </ul>   |
|      | <p>⑧取材旅行の計画作成（総合 4 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取材旅行で訪れる取材先を決め、所要時間・費用などを調べ行程表を作成する。<b>手立て 2</b></li> <li>※作成した行程は旅行業者に送り、不備がないかチェックしてもらう。</li> <li>・業者からの指摘を基に、取材旅行の行程や取材先について見直し、確定させる。</li> <li>・当日の取材計画を作成し、作業分担を決める。</li> </ul>  |
|      | <p>⑨日帰り取材旅行（行事 1 日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会社（学級）ごとに大型バスを使用して、旅行先の取材に出かける。</li> <li>・実際に現地でインタビューしたり、計画した学習活動が実施可能か検討したり、プレゼン用の写真を撮ったりする。<b>手立て 2</b></li> </ul>  |
|      | <p>⑩提案する宿泊学習のプラン（行程表・見積書）の作成（総合 2 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取材旅行で集めた情報を基に、移動時間や見学（活動）時間を確定し、行程表を作成する。</li> <li>・拝観料や食事代など、必要な金額を洗い出し、見積書を作成する。<b>手立て 2</b></li> </ul>  |
|      | <p>⑪プレゼン資料の作成と発表準備（総合 4 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行プランのプレゼンテーション資料をパワーポイントで作成する。<b>手立て 2</b></li> </ul>   |

|     |  |
|-----|--|
|     | ※プレゼンテーションには行程と見積もりを必ず入れるよう指示<br>・発表原稿の作成と分担を決め、プレゼンのリハーサルを行う。   |
| 12月 | ⑫プレゼン発表・投票（総合2時間） <b>手立て2</b><br>・各社から提案する宿泊学習のプランを上級生に発表する。※持ち時間は1社10分<br>・上級生にはアンケート（Microsoft Forms を使用）で、各社の提案に対する意見や感想と、採択したい順に順位をつけてもらう。※1位5点、2位4点、3位3点、4位2点、5位1点に換算<br>・1年生にはアンケート（Microsoft Forms を使用）で、他社の提案に対する意見や感想と、自社を除いて採択したい順に順位をつけてもらう。※1位5点、2位4点、3位3点、4位2点に換算 |
| 1月  | ⑬まとめの会（総合2時間）<br>※投票結果と各社の行程表・見積書・プレゼン資料を旅行業者に送り講評を依頼しておく。<br>・採用結果通知を封書で各社に配布する。<br>・旅行業者から、各社のプランに対する講評と、結果の受け止め方についてお話しいただく。<br>・各社ごとに、学習の振り返りを行う。<br>※上級生・他社の生徒の意見はタブレットで全員が確認できるようにしておく <b>手立て2</b>   |

**手立て1**教科の授業との連携については国語しか盛り込んでいないが、他の教科も以下のような連携が考えられる。

- ・理科で学んだ地学や動植物の知識を、クイズラリーなどの学習活動に取り入れていく。

→学年全員が同じ知識を得るため、単純にクイズ化できないと気づく→他の知識と合わせ、複合的な問題に発展させる（学びの深まり・知識の活用）

例：上高地で行うクイズラリーの問題。「田代池、大正池、明神池で、一つだけでき方が違う池は？」

田代池・明神池は伏流水が湧き出して形成された。

大正池は焼岳の噴火により噴出した溶岩や泥流によって梓川がせき止められて出現した。

- ・社会の地理で地形の特徴や特産品について学習する際の動機づけとする。
- ・体育で訪問先でも皆で楽しめるニュースポーツを探したり、自分たちで考えたりする。

こうした宿泊学習のプランニングを年間の学習活動の主軸に据えることで、各教科の学びを深めるとともに、プラン内容の充実も図ることができると考える。

また、教科担任ごとに専門性や自身の知識を生かして関連付けていくことで、学級間の知識の差異が生じ、それが提案するプランの違いに反映され、新しい価値を生み出すことにもつながる。さらに、担任が必ずしも立ち会わない教科の授業や課外の時間にプランニングが進んでいくことも、成果のivで示した「生徒に委ねる」ことにつながり、学習の価値を増すことが期待できる。

この宿泊学習のプランニングを主軸に据えたカリキュラムマネジメントを、自校で行うだけでなく、多くの学校に普及させ、数多くの生徒に社会に出て有用な人材として活躍できる「社会人基礎力」を育てていきたい。